

宮島町並みを考える会

キーワード：町並みの保存 島内外の連携

活動地域：広島県廿日市市宮島町

活動地域概要：

宮島は広島湾の西南海上に大野町と0.5kmの瀬戸を隔てた距離に位置し、周囲約30kmで面積30.39㎡のほぼ長方形をなしている島。人口約2千人、2005年に廿日市市に合併された。室町時代に現在の町の形態をなすようになり、江戸時代には門前町としてだけでなく、瀬戸内海の交易都市、商業都市として賑わうようになった。団体が主に活動している町家通りは表参道から一本裏にあり、かつて「生活通り」「裏通り」と呼ばれていた。江戸時代から続く町家が今もところどころに残されていて、人々の生活が営まれてきたことがわかる。



団体・活動概要：

1996年に宮島は世界遺産に登録されましたが、近年とみに町並みの統一感が薄れて、空き地が目につくようになってきました。旧宮島町が開催した町並み検討会のメンバーの有志は、このような町の状態に危機感を抱き、町並みの保存再生を目的に団体を結成しました。これまでに「宮島町並み今昔写真展」「宮島ワークショップ」を開催し、町並みに対する考え方について島内外の人に理解を深めてもらうきっかけづくりを行ってきました。助成対象活動では、定点写真の撮影、イベントの実施、マップ・広報誌の作成等を行いました。今後は、町屋に交流サロンを開設して島内外の円滑な情報交換を推進するとともに、地元大学との連携の強化、メンバーの専門性の追求等団体の基盤を強化して息の長い活動を目指します。



宮島町並みを考える会

設立：2004年 メンバー総数：14名

代表者：菊川照正

連絡担当者：菊川照正

連絡先：〒739-0588 広島県廿日市市宮島町796

TEL：0829-44-0039

FAX：0829-44-2773

E-mail：info@kikugawa.ne.jp

ホームページ：なし

1 団体の目的と経緯

(1) テーマと目的

宮島の町並み整備について考え、調査、研究し宮島の町並みの保存、再生を図ることを目的とする。

(2) 地域の状況や課題、この活動を始めたきっかけ、これまでの活動経緯

行政が募集した委員会の出席者有志による町並み保存啓発活動

宮島は平成8(1996)年に厳島神社と前面の海、そして背後の彌山原始林が世界文化遺産に登録される。

高度成長期には、国内有数の観光地として経済の発展のもと近代的、効率的な構造物に立て替わり、江戸期～戦前に渡って統一感がとれた町並みが徐々に失われてきた。又、近年は少子高齢化に伴う後継者不足により、残された伝統的家屋の多くは保全状態が悪く、さらに解体による空地が目につくようになり、町全体が衰退期を迎えている。

上記を受け、旧宮島町(現廿日市市)が一般人を募集し、町並みについて様々な角度から検討しようとして「宮島町並み検討会(仮)」を発足。島内外から30名あまりが参加。計3回に渡る検討会の結果、今まで現存してきた、風情のある町並みや文化が無意識の内に急速に失われつつある現状が露呈。そこで熱い思いを持つ検討会のメンバー11名が奮起し、2004年3月29日、設立総会を開催。宮島初の住民団体の発足に至る。

2004年は江戸時代をはじめ明治時代から昭和45年代にかけての島内の風景と現在の様子を対比させ

た「宮島町並み今昔写真展」を開催。当時の面影を色濃く残す、宮島の町並みを再認識。古写真のデータ収集を開始。また、広島工業大学環境環境デザイン学科と協力し、「宮島ワークショップ」を開催、宮島のもつ魅力の再認識と発見及び、住民意識の啓発に努める。

今後、町並みの再生には、町全体の活性化が不可欠であり、少子高齢化対策を含め、地域のコミュニティーの再生に向けても、精力的に活動している。

2 活動の内容

(1) 具体的な活動の紹介 (・印は工夫点、苦労した点)

活動1 「宮島定点写真」
目的:宮島の町並み定点写真を撮影し後世に残す。

町並み形成の歴史を調査・研究を行う際、当時の情景を残す重要な手がかりとして、明治～昭和初期にかけての古写真が大変貴重な資料となった。そこで、今の風景を後世に語りついで行こうと、宮島島内の定

点写真を実施。今後も続けていく予定。

撮影箇所・点数:総数256点(町内各所)

撮影日:1回目4月8日～13日、2回目5月20

日、3回目9月16日、4回目3月2日

成果品:C D - Rにて廿日市市宮島町民俗資料館に贈呈し有効活用と保管管理を依頼した。(提出資料もC D - R)

・一人で撮影したが各地域を会員で分担してやる事が必要。

・季節の花を考慮して撮影した。

・継続する事が大事であり次の定点写真をいつやる



定点写真の一枚



「あかり展」を開催したギャラリー

か決めてやることが課題である。

- ・撮影場所が現在の位置で良いか協議する必要有り。
- ・各町内に分けて撮影、色で区分わけをして地図にプロット。撮影場所が分かるようにした。

活動2 「あかり展」

目的：現存する古民家の有効活用の提案、及び昔ながらの空間共有。

古き良き町並みが残る、町家通りの江戸後期の商家「ぎやらい宮郷」(町並みの会会員店舗)で建築士、デザイナー、大学生らの手作り照明器具作品61点が集合、建物の内部の素材を生かし、ユニークな形のランプやスタンドの光が揺らぐ、幻想的な空間を演出。多くの来館者(1,700名)が島内外よりこられ、宮島町屋の良さを体感する事ができた。また、町家通りを散策して会場に足を運んで頂くことで、連動した町屋が形成する、情緒あふれる空間を楽しんで頂けた。

展示期間 2005年11月24日～12月6日

来場者数 約1,700名

- ・限られたスペースの中での展示だったので、隣り合う作品が喧嘩しないよう、配置を工夫した。

活動3 「宮島町並みアート展」

展示場所の選定・設置交渉等、半年間準備してきたが、広島市立大学・ニュールベルン大学側の予算、制作期間不足等により宮島町内での開催を延期することになり、残念ながら実現しなかった。



石造物調査風景

活動4 「石造物と小路巡り展」

4-1 「みやじま石造物マップ」を作成

暮らしと縁が深い温かみのある石造物に着目し、「巖島図会」や「宮島町史」を手掛かりに、現存する石造物を7ヶ月かけて調査、現在も伝わる伝説や言い伝えと照らし合わせて、魅力あふれるマップが完成した。「石造物と小路巡り展」に合わせ会場にて無料配布し、好評を得た。

マップはA3判の両面2色刷 14,000部作成発行。

- ・書物に残る解説だけでなく、言い伝えとして伝承しているエピソードを追加。
- ・町内に点在する石造物を一つ一つ調査して回ったが、調べてみると莫大な量になり、すべてを地図上に反映することができなかった。



「あかり展」展示場内部

4-2 「石造物と小路巡り展」の開催

江戸時代の宮島ガイドブックと言われる書物「芸州巖島図会(天保13年)」に描かれた石造物と小路の中で、現存するものをピックアップ。現在の写真を撮影し、エピソードを加えて展示した。2月の寒い時期でしたが、開催期間中の来館者は700名に上り、より深く宮島の事を知って頂けた。

展示期間 2006年2月16日～2月28日

来場者数 約700名

- ・会場内に、亥の子石・手水鉢・石臼・鬼瓦などを展示。効果的に演出した。
- ・制作に約2ヶ月かかったが、資料を整理しきれなか



「石造物と小路巡り展」展示場内部

った。

4-3 地元中学校と社会科学習を実施

展示会終了後、地元宮島中学校より石造物マップを片手に生徒を案内して頂けないかと提案があり、宮島中学校一年生と石造巡りの社会科学習を実施。学生が事前にマップを見て、疑問に思ったこと、確認したいことをピックアップ。「宮島ミステリーツアー」と題し、約2時間程宮島町並みの会会員4名とともに調査した。石造物に掘り込まれている文字を、実際に触れながら興味深そうに眺めている光景が印象的だった。

- ・学習の後、「石造物と小路巡り展」で使用した石造物パネルを中学校に貸し出し。校内に掲示して頂き、宮島を知るための教材として始めて活用された。



廿日市市宮島中学校一年生と石造巡り社会科学習

活動5 「広報誌の発行」

町並み保全の状況を少しでも島民の皆様へ理解して頂こうと「広報宮島まちなみ」を春・夏・秋・冬の年4回発行。各発行部数(1,100部×4)を宮島町内町民には新聞折込し、廿日市市、大野町に対し



定例会の様子

ては関連部署へ又広島市については市民プラザに配布。

- ・広報を見て、古写真提供を提供して頂ける方も現れ、町並みの会の活動を理解して頂くきっかけになる。
- ・町並みの会の活動だけでなく、祭りの由来や昔からの伝統様式の継承などを取り上げ、少しでも面白く読めるよう工夫した。

活動6 「宮島町並みを考える会(定例会)」

月一回のペースで定例会を開催し、会員同士の情報交換の場とした。

- ・会議室で話すだけでなく、五重塔の塗り替え作業中に、最上階の屋根まで登って、栓皮蕨の調査確認を実施。また、宮島に残る明治時代の「砲台跡」などを現地調査した。

3 活動の成果

定点写真の開始や広報誌の発行など、今後長期に渡って展開していく活動のフォーマットの完成。次年度からの作業効率up、定期的な啓発活動が実現。

石造物マップや石造物パネルなど、宮島の町並み・史跡・歴史・伝説など整理した媒体の完成。宮島を案内する教材としても、活用できる。これにより、町並みの良さ・魅力などをより分かりやすく伝えることが可能となった。

助成が果たした役割としては、1年を通して分かりやすく宮島の情緒ある町並みの良さ・大切さを発信し続けた結果、普段なにげなく会話する中に町並みに関する話題が以前より多くなり、島民にも町並みを残そうという機運が徐々に生まれてきた。島内及び島外の協力体制も少しずつ充実し、



団体発行広報誌「宮島まちなみ」

今後継続して活動していくための、基盤が確立された。

延期にはなったが、広島市立大学との共同プロジェクトや、広島工業大学環境デザイン学科との意見交換など、地元大学生とのコラボレーションも実現しつつある。

4 活動資金

(1) 助成活動における活動資金のうち、助成金以外の財源の内訳とその割合

宮島町並みを考える会会計より 1%

(2) 助成期間終了後の活動資金確保の見通しとその方策

会員の増加・会費のup、及び石造物マップの有料配布、また、石造物マップ・石造物パネル等を活用した有料イベント等による財源確保。

5 課題

団体や活動の抱える課題と解決方策

問：

会員の多数が観光業従事者の為、繁忙期が重なってしまい、観光シーズンは活動ができない状態に陥ることがある。

解：

地元大学との連携を強化。大学生に実働の部分を担当して頂き、宮島町並みの会がバックアップする体制を確立する。

問：

会の事務局が存在しない為、会員同士の情報交換が円滑に出来なくなるばかりでなく、特定の担当者の負担が大きくなる為、事務局（事務所）が必要。

解：

今年度、昭和10年築の町屋に、宮島町並みの会「交流サロン」を開設予定。コミュニケーションの充実を図る。

6 今後の展望

・前頁にも記載したが、活動拠点として「宮島交流サロン」を開設予定。島内外のコミュニケーションの充実を図る。

・会員を専門分野ごとに分け、各々の能力を生かした、効率のよい活動を行う。

活動例

・会員内の建築家及び、大学関係者による専門的な講座の開設。広く理解を求める。

・島内会員により、交流会を開き、情報交換・意見交換を活発化させる。

・芸術・広報専門の会員により、情報発信の媒体を作成。バリエーションを増やす。

・宮島の芸能・文化・民族に興味を持つ会員により、伝統芸能の継承、住民文化の掘り起こしをバックアップする。

